

一甫漫集

四

孝之道	大晦日
角刀三哥	旅之用心
身用心	火之用心
非常意方角圖	五計
食事五觀	
駱駝	覺草
齊吉公割合樂	詞書
五常	

1 曾 5
35
4

15
35
4



29

王明臣印

尚書印

29

門僧5
號35
卷4

孝之道

孝の

徳をたらしむ

白鼻のまは

大象が

田を

すき

いふ

由孝子



父母

父母	ふつはむを	報ふやま	けろの上を
ながはなよ	父あふがまハ	生きたるが	母あふがれバ
やゝなはず	おまじ父た	母まじ	頂うらゝと
是まごも	めぐあられ	たよひぬ	慈悲の口をハ
申くに	文字やまま+	のうらゝ	え胎月に
やとらら	十月ふたの	うき思ひ	生るうけ
のまごても	痛うらゝ	節ぐや	骨くまごも
まけまま	氣まま	生死り	境まゝ
苦をかろ	け思ひ	むまご	うらやの
以まごも	西まご	あふぬが	只まご

肥師や	尿管なる	乳とあま原	尿管ぬき
舎 <small>しやま</small>	母の痛つ	かハうら	子まご
いりりの	活きぬこの	救ら	又尿管
けまご	えあふひ	十のゆび	十の爪
ことごと	石澤 <small>いざわ</small>	去や	こまご
いとひま	唯いと	たまひ	身にまご
不 <small>ふ</small>	又た	味ひ	只まご
かこ	あつめ	こまご	皆まご
親切に	悪や	しまご	その人思
いっふ	報まご	やまご	唯子の為

只子すり	親方のことハ	思 <small>おも</small> ひつ	さき夜あれハ
敵をえず	え子にまを	まろこびつ	味 <small>あじ</small> なよめ
いろ何れ	先子よあそ	まろよと	えてなつと
一途ひぬ	子の返声と	少何れ	胸サハハチ
まろよも	えあをて	乳とつめ	成長をば
たのしみ	そ言方と	かろいぬ	二とととせ
すうらふ	母 <small>はは</small> のまろ	かほをせ	うつらふ
いげふ	我方母 <small>はは</small> や	こととと	心で思の
遠下り	おこふ	あれな	よいよに
なま	丈と樂 <small>たのしみ</small>	まろつ	お答 <small>こたへ</small> よ

まろぬ付	くめて管 <small>くだ</small>	口あうせ	笑の指 <small>さし</small>
飯焼と	おことも	まろつ	尿のせ <small>せ</small> や
尿の世活	まろぬ	叩 <small>たた</small> え	皆 <small>みな</small> サ <small>サ</small>
利口教	只我 <small>ただわれ</small> ひ	目もあ	口 <small>くち</small> つ
やろいぬ	おこふ	父母と	まろつ
たのしみ	まろぬ	ちもせ	あ <small>あ</small> の <small>あ</small> の <small>あ</small>
まろぬ	神 <small>かみ</small> や佛 <small>ぶつ</small> も	事 <small>こと</small> る	まろつ
父母も	子を憐 <small>あは</small> れ	えぬえ	何 <small>なに</small> か
こととと	一言 <small>ひとこと</small>	わろえ	我 <small>われ</small> 子 <small>こ</small> つ

親

骨身とてはりてはるる人

宗笛述

○ 土月晦日

老人曰孝悌の心を以ててせよとて事業は未
治の心終を始小悌を万事を為さば一或所人
年二月二日書初とて土月晦日とて人に
書し是をたいとて柱の内の外に張る
とて常りて公の的となせし責買取き
の事とて勿論美事一け意は忘るる能は
るる人としはるる

○ 角力の二首

角人がほろと流い角力の間も親ゆく負く事
あ

よいこちんも流くも中我の勝ぬく
ほよい間さ

海ろこちんも流くも中我の勝ぬく
嶺ゆもよちん

○ つまのバめぶひの勝 勤まどくまひの勝

○ 大人者不失 涯もみふ人の裸に貫くはま

赤子之心者也 赤子心者也

後引の用公

親の業どるかか忘しけり快我あほらも今くせぞ

國所其林示割とまひ守てはよせよ

馬のし流やあけけりあけげ月まにけり

けし事かま事いふまにまきんそか

けし事かま事いふまにまきんそか

けし事かま事いふまにまきんそか

けし事かま事いふまにまきんそか

右七首毎於後宿發是の席と度入る心か

火用心

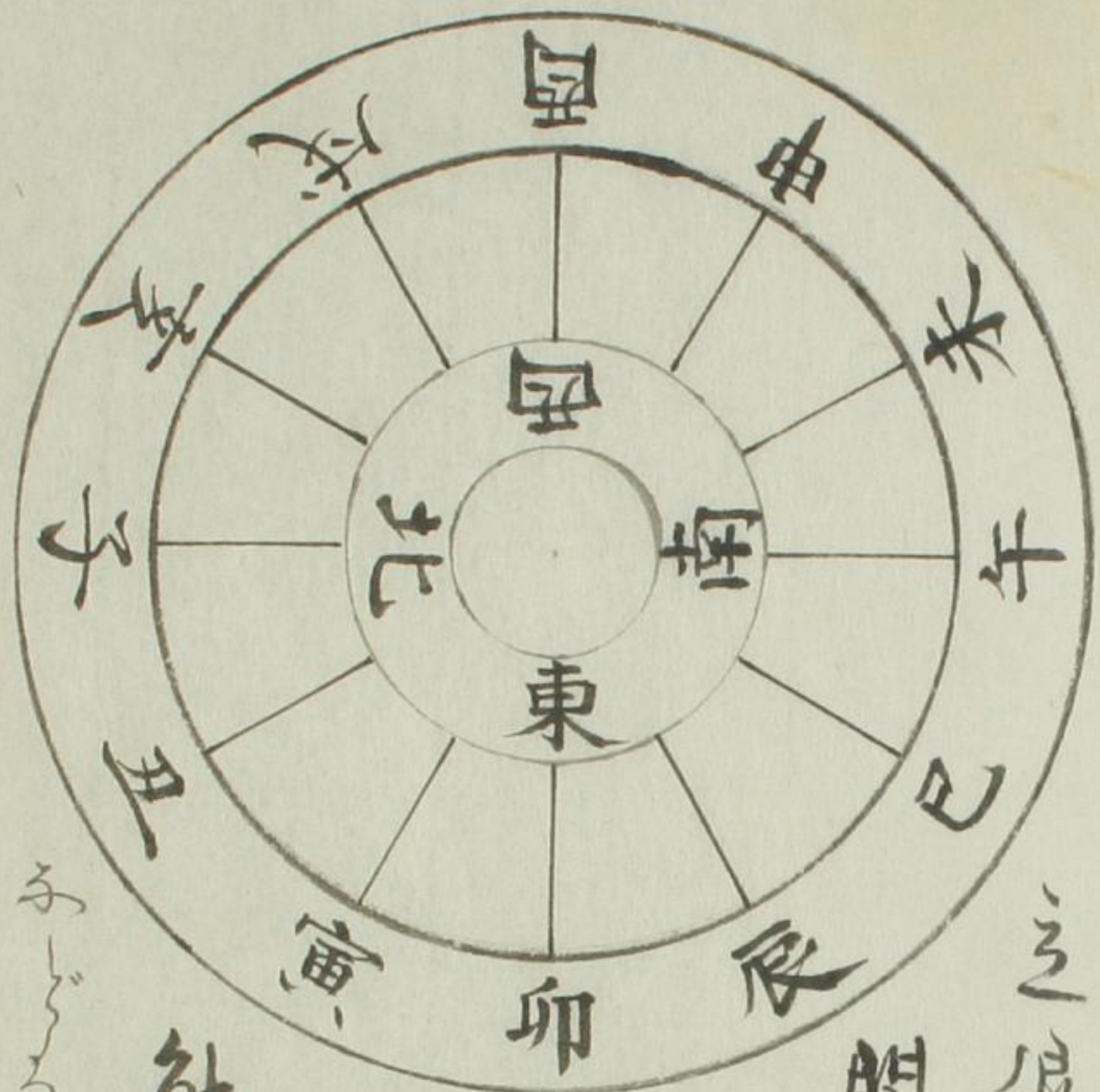
よきまげよ螢燈
 かるたをふく火
 公ゆるせばちや
 産のこゑ

用念のしるしをいふもけりともかみ只心こゝろのふかひしるし

非常意得方角圖

一 近火の席と見えぬ月とくく人父母或は老人病人
 小兒等第一まゝい身とやもよげにいとも年
 功ある人持佛堂のむるえ祖の位牌と去帳と

親にきく集めお其是物い常にむかひ
 之退せりぐ其方角に二所の
 間と兼て定むる方と



魚一其新といの圖を書て
 天井少決立てる月と手
 勿れす魚一を少げると
 能考一方のべり老病人
 字ね月とせむせり

一 毎夜事しるしをいふもけりともかみ只心こゝろのふかひしるし
 一 毎夜事しるしをいふもけりともかみ只心こゝろのふかひしるし

はのがき

〜

〜が

あまよて



〜か
〜

〜

〜が

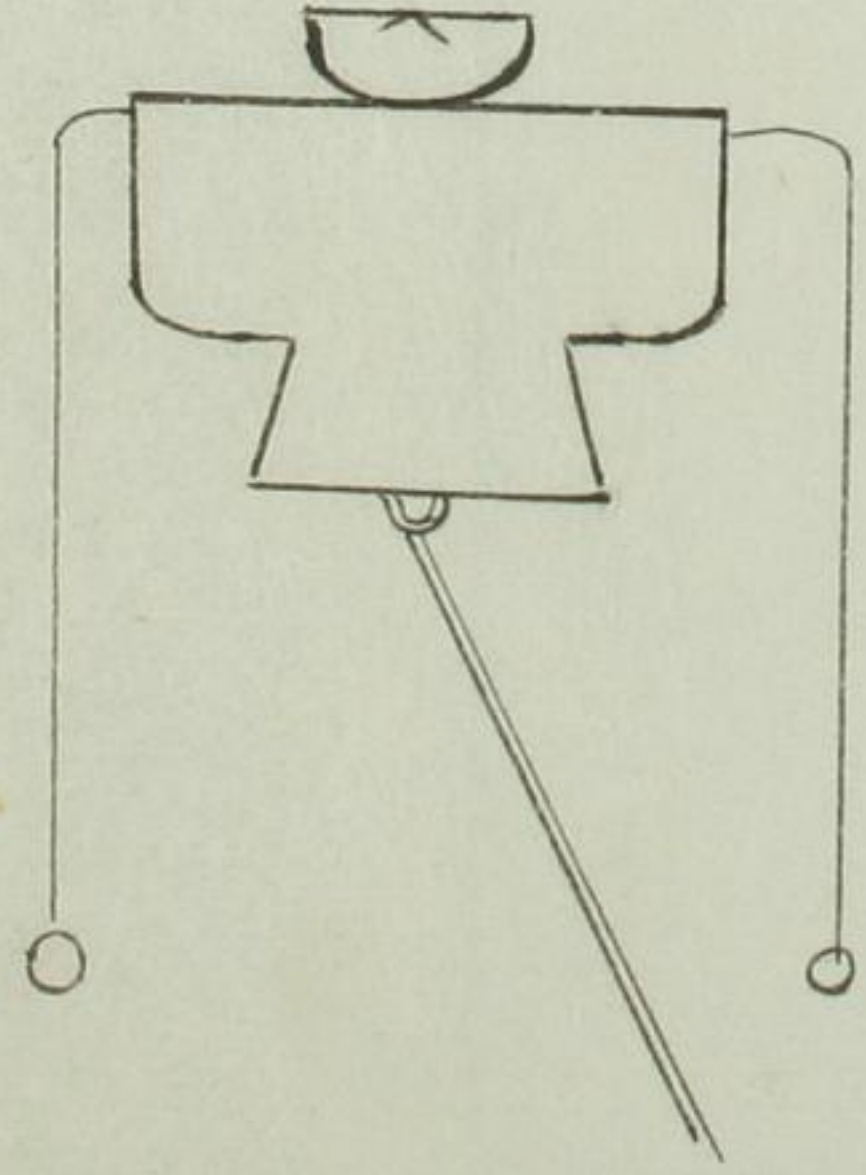


身とがろく公すかよ

〜あゆふ

〜

〜



公と屋〜あよ六欲を〜

大國天ノ福録壽の讀

福と壽乃角力と見ま〜

〜

商人永榮繁昌

商ありは忠義之とくく得るの
 子孫も人昌

代官物も廉末のやうにと忠と
 義と

福神の讀

福神くたのが家業とせいかせが利生ある日
 商人の
 商人が神讀

商人欲にあつ酒も飲床を清くせよと申す

五計

事^{コト}前^{マヘニ}定^{サダメル}
 則^{トキハ}不^ズ困^{クルシム}

一日の計を	早朝より
一月の計を	舟日小あり
一年の計を	早春にあり
一生の計を	若く時あり
平生の計を	家内和順あり

万歳之繪

徳^{トク}堪^{カン}忍^{ニン}御^ゴ萬^{マン}歳^{サイ}君^{キミ}榮^{サカ}在^{イル}

げ小海も徳も堪忍の心
 徳敬らうと目出度う

百姓充之免の奇

五穀實則伏 人間滿則停

實まことのこもも稲いねをこめめのこりりのこりり

おおももるるんんののここりりののここりり

私欲といふこと

積つみるる人ひとののここりりののここりり

ささるまよひ

大酒大喰ハ 脾胃をこころ

色欲淫乱ハ 腎をこころ

喧嘩口論ハ 糸をこころ

家業兼持ハ 家法をこころ

金銀放埒ハ 寶をこころ

我人不和ハ 交法をこころ

厥その作し髪かみ膚くわをこころころハハ孝こうのの始はじめ免めん

身みととたたくくるるもも以もつつるるもも君きみととここ

あまのぼろり孝れさるるが也

父母・今・旅・おのれ

やがて

くまのさし

五観	食事	天子之恩	先祖各之恩	乞食 <small>こじき</small> と云ふ
	國王之恩	農家之恩	乞食 <small>こじき</small> の一日の食 <small>け</small> を まにあふた我 <small>われ</small> の 食 <small>け</small> 宛 <small>あて</small> 食 <small>け</small> す <small>す</small> 事 <small>こと</small> と あが <small>あが</small> と云 <small>い</small> ふ	
日に一度膳 <small>ぜん</small> ふ <small>ふ</small> る <small>る</small> に父母 <small>ふぼ</small> や <small>や</small> の恩 <small>おん</small> と云 <small>い</small> ふ <small>ふ</small> 味 <small>あじ</small> の				

金玉不救饑	金 <small>かね</small> と云 <small>い</small> ふ <small>ふ</small> は <small>は</small> ほ <small>ほ</small> の <small>の</small> 入 <small>い</small> り <small>り</small> の <small>の</small> 味 <small>あじ</small>
	けが <small>けが</small> の <small>の</small> 味 <small>あじ</small> の <small>の</small> 味 <small>あじ</small> と云 <small>い</small> ふ <small>ふ</small>

やんこかしのはきかき
又輝乃あつるるが也
と云ふは

和音の徳よか
と云ふは



或京ぢり人社会
 買好一々るが庭の
 雪が皮十種冊之款

頃がきし一軒環の松のうまは
 のちれあまのの子けとまふ

か一首^{えふ}成書^{なり}はまゝし一とせ^ま本^{ほん}の夢^{ゆめ}なる人
 乃公^のぢり^{ぢり}首^{くび}がし又^{また}あま^{あま}のい^いえ^えは^はゆ^ゆめ^めの^のま^まは
 笑^{わら}ふ^ふも^もけ^けを^を感^{かん}す^す末^{すえ}共^{ども}く^く睡^ねむ^むあ^あま^まの^のま^まは
 ふ^ふん^んけ^けを^をと^とま^まぬ^ぬか^かん^んせ^せぬ^ぬふ^ふ一^一減^へす^す人^{ひと}は
 あ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^は
 拙^{つた}く^くも^もあ^あま^まの^のま^まは^は十^{じゅう}の^のま^まは^は公^{こう}け^けい^いふ^ふ人^{ひと}
 こ^この^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^は
 少^{せう}て^ても^も人^{ひと}せ^せい^いは^は又^{また}い^いふ^ふ人^{ひと}も^も傳^{でん}ふ^ふは
 な^なま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^はあ^あま^まの^のま^まは^は
 書^かけ^ける^るは^はあ^あま^まの^のま^まは^は

或人其目之女房を多し〜
〜に男も多し〜女房も多し
〜仲人男も多し〜

人多し〜

多し〜

如く〜

天道ヲ不知者ハ業ニ疎シ
業ニ疎キ者ハ義理ヲ不知ラ
義理ヲ不知者ハ欲深シ
欲深キ者ハ億病成
億病成者ハ奢リ易
奢リ易キ者ハ家亡成

〜

〜
君の志

公氣随ふも悔多し
心は欲を所と義理とを思
ふは欲を所と義理とを思
ふは欲を所と義理とを思
心小過首時と人成也
公耳一儀不有付と願多し
心小過首時と人成也
心小過首時と人成也

駱駝

文政六年六月下旬、大坂難波新地野創と
見ゆ阿蘭陀液ハルニヤ國産駱駝
文政四年辛巳六月阿蘭陀人持液カニ正和名
駱駝尚年狂六歳北七歳と云人長サ八間其
羊ノ似ク項長ク耳も脚ニ蹄生テ
折背ニ肉峯ハク如ク如ク食物ヲ食

一交は腹を養ひ四谷を不養して安んず事一日
百里を以て歩かぬといふ事一重なるは自ら
事一子又百斤にかる又六中より水脈を去る
亦之入る事一の病を治る事一も如る事一
喘ぎりカッタ云小使はかたき川とも病者の妙薬
毛を庖瘡に治る事一といふ事一悪魔を治る事一
北狂とも生賢業ふ事一といふ事一夫婦中を治る事一

一交は腹を養ひ四谷を不養して安んず事一日
百里を以て歩かぬといふ事一重なるは自ら
事一子又百斤にかる又六中より水脈を去る
亦之入る事一の病を治る事一も如る事一
喘ぎりカッタ云小使はかたき川とも病者の妙薬
毛を庖瘡に治る事一といふ事一悪魔を治る事一
北狂とも生賢業ふ事一といふ事一夫婦中を治る事一



毛り又麻の如くからきくむきく
 つきく事むかむか一尻に腰下あり

狂奇+

夫の代を何と云ふともアハら〜が
 子秋ら〜ふ万歳ら〜が

平も其の西側に見物ス人根産六三の類は
 倉子一海に赤代未聞の奇歎する出羽国
 にはきり〜由なり〜や〜海を少浪



覺草

- 一 親孝の我子孫の為
- 一 堪忍の具身の長久
- 一 百姓の誠の勵
- 一 自慢の智恵の少
- 一 善のいそぐ悪のゆる
- 一 妬の具身のあは
- 一 誠の寶の集り所
- 一 喧嘩の後悔
- 一 讀書の道の案内者
- 一 家内之人の貪之の度
- 一 心づめを公の養生
- 一 家内の福の沖の口祭

- 一 後悔のそそ方の案内
- 一 家業の励むの賑ひ
- 一 博奕の毒を知り毒の吞み
- 一 非道の合拍を子とせ
- 一 倅人を真綿の汁と色
- 一 善の金持を陰徳の報
- 一 人とさむいと裏の下
- 一 足事を知りぬの濁の沖
- 一 負がみを道とすの服を
- 一 奢名の事と世上に厄
- 一 名聞を張り義の虎の如
- 一 商人の賈之賈先父母の如
- 一 無慈悲の吝嗇を寶の毒
- 一 始末を冥途と思ふ人

- 一 智と愚の目^目 瘡^瘡 治^治 一 辛^辛 けり^{けり} と 成^成 務^務 する
- 一 短^短 氣^氣 と 我^我 の 身^身 の 暖^暖 切^切 刀^刀 一 か^か ず^ず り^り ま^ま ず^ず 一 罪^罪 科^科 の 掃^掃 溜^溜
- 一 人^人 と 惡^惡 く 言^言 へ 我^我 の 身^身 の 惡^惡 故^故 一 百^百 の 後^後 を 正^正 直^直 の 者^者 故^故
- 一 小^小 食^食 を 長^長 生^生 の 下^下 故^故 一 人^人 食^食 を 命^命 り^り ま^ま ず^ず 一
- 一 人^人 酒^酒 進^進 氣^氣 と 末^末 の 身^身 を ば^ば 一 我^我 慢^慢 と 奉^奉 り^り 當^當 所^所
- 一 不^不 辛^辛 成^成 名^名 と 人^人 為^為 の 歎^歎 扱^扱

仁義禮智信

紀伊中納言治真郷作

仁 心^心 と 弱^弱 く 事^事 義^義 と 心^心 と 堅^堅 く 事^事

禮 道^道 と 心^心 と 分^分 別^別 智^智 と 心^心 と 通^通 達^達

信 壽^壽 と 心^心 と 換^換 と 事^事

守^守 と 心^心 と 盡^盡 く 事^事 一 心^心 と 守^守 と 心^心 と 盡^盡 く 事^事 一 心^心 と 守^守 と 心^心 と 盡^盡 く 事^事 一

叶世は容よきしとせとていかに
 しみじみかきりし食物よ白く載て食し
 由かよ叶ぬ食ぬよかよとも容のよきと
 行免て食活きかぬ甚る暑も冬も寒も
 毎しあま環もまかひ孫子兄弟へも互に
 挨拶ししとせしりて
 父母よていしとて及に容よきと
 かめしとていしりて古郷

齊吉公割汰合藥

藥味

- | | | | | | | | |
|---|----|-----|---|----------|---|-------|-------|
| 一 | 正直 | 五兩 | 一 | 神仏と崇敬せよ | 一 | 愚人の心を | 教訓せよ |
| 一 | 思案 | 四兩 | 一 | 親よ孝りとほくせ | 一 | 非道多しと | おぼしめせ |
| 一 | 堪忍 | 三兩 | 一 | 大酒をくみ | 一 | 博奕 | 博奕 |
| 一 | 分別 | 二兩 | 一 | 朋儕を | 一 | 學問 | 學問 |
| 一 | 用捨 | 壹兩 | 一 | 物よ是處を | 一 | 主と親 | 主と親 |
| 一 | 學 | 一習 | | | | | |
| 一 | 諸道 | 一葉 | | | | | |
| 一 | 歌 | 一達者 | | | | | |

割物

一	無	慮	過	無	油	善	佛	惡
一	理	外	言	心	斷	一	心	語
一	女	少	一	一	一	一	一	起
一	女	事	源	一	一	一	一	一
一	女	事	一	一	一	一	一	一
一	女	事	一	一	一	一	一	一
一	女	事	一	一	一	一	一	一
一	女	事	一	一	一	一	一	一
一	女	事	一	一	一	一	一	一
一	女	事	一	一	一	一	一	一

石每食一匙苑可服用

源庵發搜集 詞書

小紙の便杖に存せしる事一丸粒言一也云一
粗言一也

天地は運り流る一父母生みの肉はつる
一も死をいづるあぬたさのうら一也人も
も極るある事一とせしるる一も極る一也
道とらるる免たき一とす一佛の慈悲を
に〜〜〜道びつ〜我々〜〜〜

何れも... 皆... 聞... 我... 月...

肉... 教... 又... 天...

ついでに... 天地... 現世... 寸脈... 東...
... 樹... 枝... 葉...
... 氷... 水... 空...
... 斗... 星...
... 火... 合... 縁...

あまの... 腎... 肝... 脾... 肺... 心...
... 胆... 胃... 脾... 肺... 心...
... 肝... 脾... 肺... 心...
... 胆... 胃... 脾... 肺... 心...
... 肝... 脾... 肺... 心...
... 胆... 胃... 脾... 肺... 心...
... 肝... 脾... 肺... 心...
... 胆... 胃... 脾... 肺... 心...

世に居る事もあへて又生きたる死と生との間に
申首と尸の冥泉中との旅をうかす尸の旅も
一交と家とゆゑの生死の旅もさへ死の山の麓の
川を渡りて世をくゞるとはむづかしい事なりし
旅の山と海とも一まの月と山と鐵の川と渡りて
あふく入るやうな事なりし又山海の間に
を間浮の古今とゆゑを尸の山と海と旅の
旅と一交と又古郷の海をうかす尸の山と海と
あふく中世の昔とこと感ん又後の世の昔とこと
あふくあふく万の事なればさうな思惟の事なり

あふくあふく一交とゆゑの生死の旅もさへ死の山の麓の
川を渡りて世をくゞるとはむづかしい事なりし
旅の山と海とも一まの月と山と鐵の川と渡りて
あふく入るやうな事なりし又山海の間に
を間浮の古今とゆゑを尸の山と海と旅の
旅と一交と又古郷の海をうかす尸の山と海と
あふく中世の昔とこと感ん又後の世の昔とこと
あふくあふく万の事なればさうな思惟の事なり

是者

松平下總守内方請々應而遺之

